

2020年8月30日
電機連合長野地方協議会
議長 相澤 健弘

電機連合長野地方協議会 第68回定期大会挨拶

電機連合長野地協第68回定期大会に県下各地よりご参集いただきました、大会代議員の皆さん大変ご苦労さまです。

日頃は、長野地協の活動に加盟組合の執行部の皆さんを始めとし、組合員の皆さんとご家族の皆さんから多大なご支援・ご協力を賜っていることに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

本日の定期大会は、皆さんご承知の通りコロナ禍の状況に鑑みながら規約に沿って、ソーシャルディスタンスを確保する意味合いからも、通常の代議員数よりは減らした格好で開催しております。また、この様な状況から私たち電機連合長野地協に日頃ご支援・ご協力を賜っている来賓各位のご出席も大変失礼とは存じますが、見合わせていただいております。

一方、本日はWEBとはなりますが、電機連合本部より「山鹿書記次長」、電機連合本部顧問の「矢田わか子参議院議員」にご臨席を賜っております。また、電機連合長野地協議員団より松木長野市議会議員、連合長野より根橋会長、長野県労働者福祉協議会より三好専務理事、長野県労働金庫より小池理事長におかれましては、電機連合長野地協特別常任幹事としてご出席をいただいております。ご来賓の皆様におかれましては、日頃のご指導とご厚誼に対し心から感謝と御礼を申し上げ、会場の皆さんの大きな拍手をもって御礼と激励に代えさせていただきたいと思っております。

本定期大会は時間を極力気にしながら進行していきたいことから、挨拶については私たちを取り巻く情勢の一点に絞らせていただくことを予めご容赦願います。

この一年間、電機連合の基本理念である「美しい地球・幸せな暮らし」の下、「新しい豊かさに生きる」「自分らしく働く」「助け合いと連帯の社会をつくる」をテーマに掲げ、全加盟組合の皆さんと組合員の皆さん、地域労働福祉事業団体の皆さんと共に活動に取り組んできたことを率直に嬉しく思いますし、何よりもこうして定期大会を迎えられたことは、非常に感慨深い気持ちであります。

昨年10月に発生した「令和元年東日本台風（台風19号）」、今年1月中旬より世界的な脅威となっている「新型コロナウイルス感染症」、直近の豪雨災害等、私たちを取り巻く環境があまりにも激しく動いており「当たり前」が何なのかさえ分からない状況になっていると痛感しています。

一方、この様な状況のなかにあってもひとり一人が「考えること」「行動すること」を止めずに、此の難しく厳しい日々を送られていることに、人間としての底力を強く感じています。

コロナ禍の状況は、これまでの経済的、地政学的な危機と異なり世界中の人々が脅威を感じる文字通り「世界的な事象」となっています。私たちの生活様式や産業構造などの様々なものが大きな変化を遂げていくと想定していますが、「人を大切に共に支え合う社会」が失われることがないように、皆でこの状況を乗り越えていきたいと思います。

コロナ制御と経済活動の両立は天秤でバランスをとるように難しいと考えますが、電機連合長野地協としての役割と責任と期待に応えながら、地域社会に貢献する一員としてひとり一人が愚直に地道に歩いていきましょう。これからも皆さんのお力添えを是非宜しくお願いします。

挨拶を締めくくるにあたり、今年は改選期を迎え常任幹事会より、堀内副議長、北川副議長、中村常任幹事、大久保常任幹事、宮本会計監査がご退任されます。合わせまして、各加盟組合役員の大勢の皆様がご退任されるとお聞きしています。今日まで電機連合長野地協の活動に心血を注いでいただきましたことに高座から大変恐縮ですが、衷心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

むすびに、向こう2年間の運動方針に対して建設的且つ闊達なご意見をお願い申し上げ、常任幹事会を代表としての挨拶とさせていただきます。

本日は宜しく申し上げます。